目次

序

はじめに　経済同友会の三十年……1
——戦後経営者の思想と行動——

序篇

時代の先駆者として……15
——前期十五年の概観——

一　進歩的経営者の旗上げ…17
二　草創期の活動と推進者たち…24
三　「再建」と「民主化」への始動…32
四　ドッジ・ラインと動乱ブーム…41
五　講和成立と経済自立…52
六　「経営者」の自覚と反省…57

七　議会政治擁護に起つ…64
八　「経営者の社会的責任」の明確化…75
九　「経営者啓発」への志向…82
十　「自主調整態勢」の精力的推進…89
——経済新秩序の確立へ——
十一　「構造問題」に取り組む…99
十二　「政治刷新」に新たな熱意…106
十三　高度成長政策に警戒的発言…111
十四　国際交流への第一歩…117

本篇

「進歩と調和」の求道者として……127
——後期十五年の歩み——

第一章「開放体制」の自覚……129
一　国際環境への国内的対応……131
二　国際活動の積極的展開……145
(一)　日米共同提案を発表……145
(二)　欧州経済団体とも提携……155
第二章「大型経済」化の質的反省……165
——「開放体制」への適応——
一　単数制代表幹事・木川田一隆……169
二　前進のための構造調整……173
三　安定成長路線への決意……179
——昭和四十年不況の教訓——
四　経済発展の「第二局面」に提言……190
五　産業再編成と「構造金融」の提唱……193
六　開放体制下の構造問題……197

(一) 農業近代化に提言…198
(二) 「中小企業」に指導的提案…206
(三) 「東京再開発」の基本方向…209

第三章 国際的共同活動の進展……215
一 「東西貿易」問題で共同声明…218
二 「南北問題」を現地に探る…223
——欧州と東南アジアに調査団——
三 「南北問題」への国際的挑戦（その1）…227
——CED・CEDAとの共同研究——
四 「低所得国への貿易政策」で提言…235
——「南北問題」への国際的挑戦（その2）——

第四章 「国際化」への経済社会的対応……247
一 「政界浄化」へ単独申入れ…250

二　世界的視野に立つ発展構想……254
三　金融体制に革新的提言……263
四　「産業福祉社会」の主体的展望……269
五　国際協力における主導性……274

第五章　総合的研究体制の開花……283
——「構造問題」の発展的追求——
一　「進歩と調和」理念の発揚……286
二　米価問題——提言と対話……292
三　「中堅企業」への認識と期待……300
——地方同友会による共同討議——
四　「大都市地域の計画的開発」に提言……306
——「地価問題」解決への革新的構想——
五　「技術開発」に問題提起……313
——「欧州技術開発調査団」の成果——
六　エネルギー政策の抜本的再検討……321

第六章　「教育改革」への実践的挑戦……327
——「産学協同」理念の展開——
一　「産学協同」の推進へ…328
(一)　「都市計画学部の創設」を申入れ…331
(二)　高校教員のアメリカ派遣…332
〈「経済教育」刷新への布石〉
(三)　「工業化に伴う経済教育」に提案…336
二　時代即応の「教育刷新」へ…338
——教育界との提携みのる——
(一)　教育界との共同討議…339
(二)　「経済教育」改善体制の実現…343
(三)　「語学教育」振興にも新機関…347
三　「高等教育制度」に画期的提言…351
(一)　経済同友会の「教育理念」…352
(二)　「大学の基本問題」への認識…354
〈中間報告と委員長所見〉

(三) 「高次福祉社会」を目標として……359
△「学園紛争」と「経営者」▽
(四) 「経営者」的診断に基づく処方箋……367
△「大学制度」に異色の改革案▽
四 在外子女教育への寄与……370

第七章 国際協調の主体的推進……373
——社会的責任の「国際化」——
一 「自由世界の新しい前進」に提言……376
——CED代表を迎えた通常総会——
二 自由と無差別貿易への国際協力……385
——「非関税障壁問題」で共同提言——
三 「東南アジア開発援助」に共同提言……396
——「南北問題」への国際的挑戦（その3）——
(一) 経済同友会が原案を作成……397
(二) 周到・広範な「提言」内容……404

四　「日独合同会議」の定着…409
——「大国主義」後退への対応——
(一)　保護主義的傾向との対決を…411
〈「第一回合同会議」〉
(二)　「国際企業憲章」を提唱…417
〈中山素平代表の発言〉
(三)　国際通貨制度の共同研究へ…420
〈「第二回合同会議」〉

第八章　「経営者」の意識革命……429
——「七〇年代」の新路線を求めて——
一　「社会的責任」の新次元へ…432
——「社会開発」と「国際化」を基軸に——
二　「未踏経済社会」への挑戦…439
——研究調査活動に新生面——
三　「世界政策国家」の自覚…445
——「第三回日独合同会議」開く——

(一) 歴史的な日独協力の確認……447
(二) 木川田代表の国際アピール……456
〈「資源問題」で初の見解表明〉
四 「安定成長」志向の再確認……459
五 「自由と秩序」の調和社会へ……467
——「円切上げ論」と木川田発言——

第九章 「外部経済」への挑戦……475
——「経済社会」的自覚の新次元——
一 「ナショナル・プロジェクト」に提言……476
二 転換期の資源政策路線……480
(一) 「国際化」の中の資源開発……481
〈国際的問題提起と「中間報告」〉
(二) 「総合的・体系的資源政策」を提言……484
(三) 「アラビア湾経済使節団」の派遣……488
三 「新しい森林政策」の確立へ……491
——「二十一世紀グリーン・プラン」構想と政策実現——

四　「社会資本充実」で緊急提言……501
——福祉向上と景気振興——

第十章　社会的責任の「体制化」……513
——国際新時代への対応——
一　「ニクソン声明」に所信表明……516
二　「新しい経済」の創造へ……527
三　「多極化時代・日本」の自覚と反省——……532
——「新時代への決意」に所見——
四　「新しい国土建設」で提言……537
五　高次元の「環境問題」観……549
——「欧州環境問題調査団」の成果——
六　「経済社会」意識構造の探求……558
——「社会緊張」と「若年層指導」で提言——

第十一章　民間経済外交の多角的展開……567

一　「東京経済人訪中団」の結成・派遣……569
二　「社会的責任」で国際的合意……573
　——「日独合同会議」の帰結——
三　「東西経済交流」で共同見解……591
　——「緊張緩和」に国際的対応——
四　「激動」のなかの国際対話活動……602

第十二章　「企業と社会」の一体的発展へ……609
　——社会的責任の「行動化」——
一　「福祉経営への転換」——四十八年年頭見解……611
二　「社会と企業の相互信頼」——提言……618
　(一)　「期待される企業像」の探求……620
　(二)　「責任」遂行への具体策を明示……625
　(三)　反響と実践例……630
三　「社会進歩への行動転換」——代表幹事所見……633
四　底辺を培う（その1）……640
　——「研究部会」の成果——

第十三章　「新しい自由経済」の探求……645
一　「石油危機」に新たな決意…649
——緊急提言と四十九年「年頭見解」——
二　「自由企業の前進」へ…661
——「同友会理念」の新展開——
三　「企業革進」への基本構図…668
——「新自由主義推進委員会」の中間報告——
四　「低成長」時代への対応…679
——「五〇年代経済」と企業——
第十四章　「転換期」における国際的対応……689
一　「新しい国際経済秩序」の確立へ…690
——「日米共同見解」を発表——
二　「エネルギー問題」の国際的究明…704
(一)　「国際シンポジウム」の開催…706

(二) 協力七団体による共同研究……712
(三) 『高価格エネルギーと国際経済』……717
〈多面的国際協力を勧告〉
三 東南アジアとの積極交流……721
(一) 『投資行動指針』と対話活動……722
(二) 「東南アジア経営者会議」の開催……728
第十五章 新しい「現実路線」の進発……739
一 佐々木代表幹事時代開く……743
(一) 「実践的な、勉強する同友会」へ……744
(二) 新しい「活動態勢」と事業計画……747
(三) 「産業懇談会」の積極活用……751
〈底辺を培う（その2）〉
(四) 地方同友会との連携強化……755
二 「経営参加」と「分配政策」で報告……762
——「勉強する同友会」の前進（その1）——

三　「低成長下の企業経営」で報告…771
——「勉強する同友会」の前進（その2）——
四　「石油供給安定化」で提言…786
——「政審・エネルギー小委」の成果——
五　「アジアの先進国」の自覚…796
——「南北問題」の新段階に対応——
六　「人間中心社会」の構築へ…808
——創立三十年の決意表明——
筆者あとがき……828
活動年表……833
全国組織一覧……863
刊行あとがき……865

表紙背文字および扉題字は、佐々木直現代表幹事の揮毫によるものであります。